

別紙3（第7条関係）

会 議 結 果 の お 知 ら せ

令和6年度第1回宮古市市民自治推進委員会を、次のとおり開催しました。

令和6年6月19日

宮古市市民自治推進委員会

- 1 開催日時
令和6年5月30日（木）14時00分～15時30分
- 2 開催場所
宮古市役所本庁舎 1階 保健センター大会議室
- 3 会議の概要
（1）参画の実施状況について
（2）協働の実施状況について
（3）提案事業の見直しについて
（4）令和5年度市民意識調査の結果について
- 4 問い合わせ先
宮古市市民自治推進委員会事務局 宮古市 企画部 企画課
電話 0193-68-9064

令和6年度第1回宮古市市民自治推進委員会【会議録】

- 1 日 時 令和6年5月30日（木）14時00分～15時30分
- 2 場 所 宮古市役所 本庁舎1階 保健センター大会議室
- 3 委 員 出席者：11名（委員15名中半数以上出席につき、会議成立）
 - ① 昇高茂樹（委員長） ② 戸由忍（副委員長）
 - ③ 香木みき子 ④ 本多政彦 ⑤ 澤田亮 ⑥ 長洞慶幸
 - ⑦ 川上寿恵 ⑧ 志賀政信 ⑨ 小林智恵子 ⑩ 門坂知実
 - ⑪ 佐々木聡子
- 4 事務局 出席者：8名
 - （1）企画部
 - ① 企画部長 多田康 ② 企画課長 箱石剛
 - ③ 同課企画調整係長 工藤真奈美 ④ 同係主事 三浦奈穂
 - （2）市民生活部
 - ① 市民生活部長 若江清隆 ② 生活課長 伊藤宏子
 - ③ 同課男女参画・協働推進係長 小向和美
 - ② 同係主査 名取綾子
- 5 傍聴者 0名
- 6 議事等 14時00分、企画課長が会議の成立要件に基づき委員会の開会を宣言。企画部長、委員長の挨拶後、委員長が議長となり、会議を進行。
 - （1）参画の実施状況について
 - （2）協働の実施状況について
 - （3）提案事業の見直しについて
 - （4）令和5年度市民意識調査の結果について
- 7 挨拶
 - （1）企画部長
 - （2）委員長

8 議 事（概要）

（1）参画の実施状況について（事務局：企画課 企画調整係）

≪概要≫

参画の実施状況について【資料1】に基づいて事務局から説明。次のとおり意見・質疑を受け、承認された。

発言者	内容及び発言要旨
Q：委員	資料1－1__平成30年度を境に、実施件数が大きく増加していることについて、条例が変わった等の理由はあるのか。

発言者	内容及び発言要旨
A：事務局	条例が変わったということではありません。行政における計画の変わり目において、市民の皆様から意見をいただく機会が増えるため、アンケート等の件数が増えたと考えられます。 なお、総合計画という市の一番大きな計画がありますが、今年度が策定年度となっています。そのため、令和4年度から令和5年度にかけて、特に、アンケート等の件数が増加しました。
Q：委員長	■資料1－1 __ワークショップの実施機会が少ないようだが、今後の見込みはあるか。 ■資料1－2 __プレミアム商品券に関するアンケートについて、多くの市民が活用していた事業だと思うが、回答件数が少ないことが残念に思う。
A：事務局	■策定する計画に応じて、参画方法を使い分けています。ワークショップはハザードマップの作製時に活用された事例がありますので、防災等の更新時には件数が増える可能性があります。 ■より多くの意見をいただけるよう、回答方法を工夫し、取り組んでいきます。

(2) 協働の実施状況について（事務局：生活課 男女参画・協働推進係）

《概要》

協働の実施状況について【資料2】に基づいて事務局から説明し、承認された。

(3) 提案事業の見直しについて（事務局：生活課 男女参画・協働推進係）

《概要》

①令和7年度実施事業の取り扱いについて【資料3】に基づいて事務局から説明。次のとおり意見・質疑を受け、承認された。

発言者	内容及び発言要旨
Q：副委員長 A：事務局 A：事務局	■長く継続している事業については、行政の事業とする必要があるのだと感じる。継続年数の境目を持って、各課の事業とすることは良いことだと思う。 ■提案事業のプレゼンをする際に、担当課からの意見を述べる時間があるが、課によって内容が統一されていない。統一された様式で資料として配布してほしい。 ■事業が継続して行われ、団体と市が良い連携が図られることを期待したい。 担当課の意見を資料として配布することについて、検討いたします。 半日の時間の中で、1団体当たりにはあまり時間をかけられないまま評価をしていただくことについて、ご負担をかけていました。見直し後の評価においては、各団体がどういう思いで事業を行うか、市が協働としてどう考えるか、また、1年経過して結果はどうだったかを今まで以上に話さなければいけないと考えています。その上でじっくり評価をいただきたいと思います。
Q：委員 A：事務局 A：事務局	■提案事業ではなく、所管部署の事業になった場合、どのような事業の形になるのか分からないと、見直し案に賛成し辛い。今の団体から事業が離れるということか。 ■市の事業となった場合、市の負担が増えるのか。 契約をして事業を行うという形態は変わりません。ただし、事業費の予算について、提案事業として採択された場合は団体の要求どおりの事業費が予算化されますが、所管部署の事業になると、担当課において査定を行うことになります。 恒常化した事業であり、市として必要な事業であるなら市で行っていきたいと考えています。そこで今回、毎年同じ事業を評価することについて審議し、見直しを諮りました。

発言者	内容及び発言要旨
Q：委員 A：事務局	歯科医師会の事業を見ると、なぜ 16 年間も事業費をもらい続けなければいけなかったのか。ボランティアの育成を図ると書いてあるが、育成できなかったからなのか。ただ年数が経過しているからという理由で、提案事業から市の事業に移すというのはどうなのか。 市が発案できなかったことを歯科医師会が提案したことで事業が始まりました。ボランティア以外にも、材料等、他の費用がかかります。長く継続し、事業の有効性が認められてきたので、提案が無くても市が予算を立てて、一緒に事業を行うパートナーを探して事業を進めていきたいと考えています。そのため、今後は市が、ボランティア等の課題について、議会や委員に説明をして評価をしていただき、予算化していくという形を取っていきたいと考えています。
Q：委員長 A：事務局	市の事業となった後は、市民自治推進委員会に情報は来るのか。 協働事業ではないため、市民自治推進委員会ではなく、市民参画の状況として報告することが考えられます。
Q：委員 A：事務局	最終的には予算の話になると思うが、市の事業となった途端に予算が減額となる可能性もある。1 年くらいは今の予算を維持できるのか。 財政課で予算編成する際に内容を精査しますが、むやみに減額するのではなく、事業を実施できるかどうかを検討します。その時点で、物価や財政状況を見て、予算は確保できると考えられます。ただし、事業によっては当初の目標を達成できたので事業を終わらせるということも考えられます。

発言者	内容及び発言要旨
Q：副委員長	■これまでは団体が事業費を積算していたものを、今後は市が積算することになると、団体側の思いと一致しないことが考えられる。例えば「花かおる散策路」で、団体が今年は花を3,000本に増やしたいという思いがあるかもしれない。そういう団体側の意見を聞く機会についてどのように考えているか。 ■提案事業の審査にはよるが、委員会での後押しもあり、やりたいことは担保されてきた。これからは行政と団体の1対1の形になる。その新しい形になった時、審査が厳しくなったり、やりたいことができなくなったりということがないように、意見を吸い上げる形で進めていただきたい。
A：事務局	主体は市と言いながらも、事業の担い手は今までと変わらないと考えています。他の委託事業においても事業者に参加見積を伺って、予算を積算するようにしています。
A：事務局	必要性を委員会が認めて継続している事業ですので、団体や市民の皆様からの意見を聞きながら事業を行っていきたいと考えています。

②令和5年度実施事業実績報告の実施方法について、例年どおり、全実施事業のプレゼンを行うか、①により提案事業を終了する事業については書面での報告とするかを協議。次のとおり意見・質疑を受け、全実施事業のプレゼンを行うことに決定した。

発言者	内容及び発言要旨
Q：委員	提案事業として最後の報告ということであれば、団体数は多いが、ほとんどが提案事業を終了となるので、団体の気持ちを聞く機会があっても良いと思う。
A：事務局	審査の効率化については課題だと感じています。事前に読めるよう要点を整理し、担当課の意見も添えて、資料が統一されていればしっかり評価できると考えています。

発言者	内容及び発言要旨
Q：委員	■第2回の自治推進委員会が、提案事業の審査ということであれば、それまでに資料を読むのは難しい。
Q：委員	■書面で審査するのであれば、事前に資料が欲しい。2週間で読み込むのは難しく、直接話を聞いた方が審査しやすい。
A：事務局	令和5年度の実績報告はすぐに準備できます。 また、書面での審査となった場合は、評価書の作成は第2回自治推進委員会ではなく、後日回収を考えています。
A：事務局	書類審査の場合、委員の皆様の意見については当日もしくは後日に伺うことを検討しています。
Q：委員	■資料を事前に欲しいと言ったが、委員会の時間以外で時間を捻出するということになるため、書類で審査することは難しいと思う。今までどおり、審査の場を提供していただきたい。
Q：委員	■後日回収となると、いつまでも後回しになってしまう。 ■書面だけでは評価ができないため、今までどおりの方法が良い。
Q：副委員長	■事業の効果や、行政としてやりたかったことができなかったという話の評価だと思うが、必要性に点数を付けることは難しかった。 ■大きな目標ではなく、効果が得られなかった等の具体的な話は、初めから資料として出すことは考えにくく、対面で質問をして聞き出すことができる。書面だけでは、委員会の役割は達成できない。

発言者	内容及び発言要旨
Q：委員	■ 6月27日の第2回委員会は、令和5年度実施事業の報告のみで、後日、令和7年度の提案があるのか。 ■ 令和6年度の実績報告は来年の今頃だと思うが、令和5年度の評価が最後のプレゼンとなる事業については、今後は話を聞く機会がないということか。
A：事務局	■ 提案は、第3回自治推進員会で予定しています。 ■ そのとおり、機会はありません。
Q：委員	そうであれば、対面で聞いた方が良い。
Q：委員長	全団体からプレゼンをしてもらうという方向で良いか。 また、提案事業を終了する事業については、今年度が最後のプレゼンになるということで良いか。
A：事務局	令和6年度の提案事業については、プレゼンの機会があると考えています。今後、検討します。
A：事務局	令和6年度の提案事業は既に始まっていますので、評価は来年の今頃になります。来年は担当課の事業として進んでいることと想定していますので、評価方法についてはまた協議させていただきたいと思っています。

(4) 令和5年度市民意識調査の結果について（事務局：企画課 企画調整係）
 ≪概要≫

令和5年度に実施した市民意識調査結果の概要について【資料4】に基づいて事務局から説明。次のとおり意見・質疑を受け、承認された。

発言者	内容及び発言要旨
Q：委員	必要度と満足度の差し引きを要求度とすることについて、学術的な定義があるのか。要求度が低いから満足しているという話になるのは、あまり良くないと感じる。

発言者	内容及び発言要旨
A：事務局	要求度は分かりやすい表現として独自に使用しましたが、今後検討いたします。 なお、結果の見方について補足しますと、満足度の矢印が下がっている項目は、前回と比較して5ポイント以上下がっていることが多く、必要度の上向きの矢印は、10ポイント以上上がっており、必要度が増加しています。差し引きについては、必要と感じているが満足していないということを表しました。特に、産業就労、基盤整備に集中しています。必要と感じていることや満足度が低い項目に関連した事業が、今後の総合計画には必要と感じています。
A：事務局	要求度は市民の方の関心値だと思います。関心がある項目に印をする人が多いと捉えています。
Q：委員	定住意向は年代で変わる。高齢の方は今すぐ市外に移動したいと考える人は少ないと思う。
A：事務局	資料4—2のP38に年代別の結果を掲載しています。10代20代は定住意向が低くなっています。
A：事務局	おっしゃるとおり、年数が経過すれば定住となります。 また、840件ほどの文書回答のうち、ほとんどが50代以上となっています。WEB回答だけで見ると若い世代が多くなっていますが、全体数で見ると50代以上が多いので、他の世代の結果があまり反映されず、このような結果になりました。
Q：委員	定住意向は重要である。仕事や家族などの環境が理由で簡単には移住できないという、制約がある前提での質問なのか。
A：事務局	仮の想定は難しく、アンケートに回答する方が自身に置き換えて回答しています。それぞれの環境や考えで答えてもらっています。

発言者	内容及び発言要旨
Q：委員	制約がないと考えた上で問いた場合、答えが変わってくると思う。どのような結果になっていたか興味がある。
Q：委員	①の自然分野を見ると、満足度や必要度が高いのに、要求度は63番目となっているのはおもしろい。
A：事務局	価値はあるが、ある程度満たされているという認識です。

(5) 各委員からの振り返りなどについて

議事終了後に、本日の振り返り及び意見などについて、委員長から各委員へ伺う。以下、発言内容。

発言者	内容及び発言要旨
副委員長	これからは協働事業を行政が担うということなので、自治推進委員会が必要性を評価し点数付けしてきたように、行政内部も評価をしていく必要がある。提案事業からの終了が独り立ちということで、より充実した事業になると良い。
委員	市民意識調査の結果について、上向きの矢印が一つもなかったことは悲しい。 協働事業は必要で続けていかなければならない。限られた財源で、自分たちも見極めていかなければいけないと責任を感じた。
委員	提案事業の見直しについて、もやもやしていたことがすっきりした。今後も色々な提案事業を見たいと思った。
委員	新たな提案事業を期待したい。
委員	次々と新しい提案事業が増えると良い。若い人たちの定住にもつながると思った。
委員	これから新しい事業が増えると楽しみ。
委員	仕事等が無いから市外に出ていくという人もいる。それでも宮古で生活したい、働きたい、と思う人たちがいたら良い。そこに少しでも携われるなら、できることがあればやっていきたいと思う。

発言者	内容及び発言要旨
委員	今活動している人たちがニュース等になると、あのこ となのだ、と少し分かるようになってきた。これから 色々な人たちが案を出して参加してく機会が増えてほ しい。
委員	どんどん良い事業が掘り起こされていけば良い。素晴 らしい活動ができると思う。
委員	新しい事業の提案が増えると良い。
委員長	提案事業の見直しについて、新陳代謝を繰り返しなが ら活性化されてこの場を巣立っていくと良い。卵をふ化 させたとして、今後も自治推進委員が重要な場となると 良い。

9 その他

(1) 今後のスケジュールについて（事務局：企画課 企画調整係）

■ 第2回自治推進委員会

- ① 日 時 令和6年6月27日（木）
- ② 内 容 令和5年度実施提案事業の評価について

■ 第3回自治推進委員会

- ① 予 定 令和6年10～11月頃の開催予定
- ② 内 容 令和7年度実施提案事業の審査について

10 閉会